

令和6年度 江戸川区教育課題実践推進校

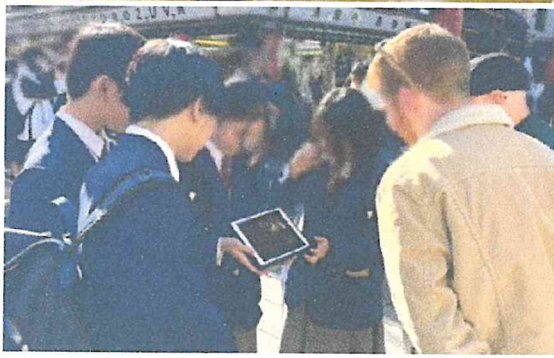
研究課題「魅力ある学校づくり」

研究紀要

研究主題

国際社会に貢献できる人材の育成を目指して

～『プラス1クラス制』による「集団生活へのよりよい適応」と「良好な人間関係の構築」を目指して～



はじめに

江戸川区教育課題実践推進校・南葛西第二中学校の研究発表会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本校は、葛西臨海公園にほど近い、新しい街・南葛西に立地する令和8年度に開校40周年を迎える中学校です。近年、学校近隣地域の就学者人口が減少傾向にあり、学校規模も以前に比べると小さいものとなってきています。

このような中、本校への安定した登校が困難な生徒が一定数あるとともに、その理由が集団生活への苦手感であったり、登校に対する意欲が高まらなかったりすることや、SNS等での人間関係に悩みを抱える生徒が漸増傾向にあることも実態としてみられ、これらを改善することは喫緊の課題であることは確かです。

そこで、本年度の江戸川区教育課題実践推進校として、「集団生活へのよりよい適応」と「良好な人間関係の構築」に資するよう、第2学年で「プラス1クラス制」として学級人数の縮小の試みを行い、全学年を3クラスで整えて年間の教育活動を推進しました。また、特別の教科 道徳でのローテーション制、今後一層グローバル化・多様化する社会において、国際社会に貢献できる人材の育成をあわせて意識した研究を推進してまいりました。

もとより道半ばではありますが、参加された皆様方にとっても改めて考える機会となる、学び多いものとなる発表と受け止めていただけたら幸いです。

結びとなりますが、講師として本研究に年間を通して熱心にご指導いただきました明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授 石鍋 浩先生、このような貴重な機会を与えてくださった江戸川区教育委員会教育長 蓮沼千秋先生をはじめ江戸川区教育委員会の皆様、教育活動にご理解・ご協力・ご支援をいただきました保護者・地域・関係諸機関の皆様方に心より感謝申し上げます。

江戸川区立南葛西第二中学校校長 古澤 浩一

令和7年1月29日(水)

江戸川区立南葛西第二中学校

本校の研究概要について

本校の研究実践の具体的手だてについて、第2学年で「プラス1クラス制」での様子を中心として、お伝えさせていただきます。

第2学年での「プラス1クラス制」の実施

3クラスの編成 25・26・26
2コースの編成 38・39

- 第2学年在籍生徒77名を3クラス(1・2・3組:25名～26名)と2コース(A・Bコース:38～39名)に編成。
…教室を5部屋用意し、机・椅子等を学年在籍人数×2個で用意。
- 都費講師の担当教科(理科・美術科・家庭科)と英語科は2コースで実施。
…多くの教科において、より少人数での学習指導体制を確立。きめ細やかな指導で学力向上を目指す。
- 学級活動・特別の教科 道徳・給食指導等を3クラスで実施できるよさを生かした指導の充実。
…「よむ YOMU ワークシート」への取組は第2学年を起点に推進。各学年各教科における授業改善も具体化された。

全学年が3クラスで統一

- 第1学年が「中1ギャップ」で3クラス。第2学年は「プラス1クラス制」で3クラス。3年は在籍110名で3クラス。
…運動会等の学校行事や生徒会活動等で、「縦割り」での取組や「学級対抗」の取組が実施できた。
- 第2学年が3クラスとして運営されることで、生徒会役員・各種委員が増員。活躍する機会を確保する。
…生徒会活動が活性化されることで、生徒の委員等を務める機会を増やすことができ、自己肯定感を高められた。

国際社会に貢献できる人材の育成を目指す英語科指導の充実

- 英語科では、第2学年を2コースで編制。必要に応じてTT等が実施できるように固定時間割を工夫。
…全校で「スピーキング中心の英語授業」を全学年で実施。ESAT-Jを視野に入れ、生徒の英語力向上を図った。
- 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業改善
…テンポよく計画的に進む授業進行の中で、即興性のあるやり取りを目指した2分程度の英会話指導を実施した。
…各学年の修学旅行等の校外学習の際に、外国からいらした方と実際に英語で会話することに挑戦させた。

ローテーション指導による「特別の教科 道徳」

- 全学年で「特別の教科 道徳」は学級担任・副担任によるローテーションでの指導を、年間を通じて実施した。
…「いじめ」「登校できない生徒」「生徒の不安感」「問題行動」等の漸減と全員で生徒にかかわる軸と据えた。
- 全教員の「特別の教科 道徳」の指導力を向上させる校内研修の実施と工夫。
…全教員で同じ題材で「導入」と「まとめ」に重点をおいたマイクロティーティングによる授業改善に資する研修の実施。

目が行き届き、生徒が安心できる生徒指導の推進

- 第2学年が「プラス1クラス制」の実施により、本来の学級担任2名のところ3名体制で生徒を指導することができる。
…担任の一人あたり生徒が縮減され、相談にあてる機会や、細かな変化に気づいて対応できる可能性が増える。
- いじめ・不登校の未解消・未改善ゼロを目指し、悩みを抱える生徒が相談しやすい、居心地がいい環境を整備する。
…SSWとの連携の強化や校内別室指導員の配置による、校内別室登校等の支援体制の整備が推進された。

研究構想図

【江戸川区教育課題実践推進校の研究課題】……「魅力ある学校づくり」

「いじめの未然防止につながる魅力ある学校づくり」、「不登校(やむを得ず登校できない児童・生徒)の未然防止につながる魅力ある学校づくり」の2点を中心とした組織的な実践研究を行う。

【本校を取り巻く環境】

入学者数は減少傾向である。本校(および学区内小学校)を選択する生徒の比率は高くない。

「中1ギャップ」で第1学年は3学級であるが、他校を希望しながら本校に不本意に入学した生徒や、本校入学生徒との小学校での人間関係等から他校への入学を希望するケースも見られる実態がある。

グローバル化が進展する中で、多種多様な価値観を有する人々と相互に尊重し合える力を育むことが重要。

【生徒の実態】

問題行動等調査におけるいじめの発生件数は、漸減傾向にあるが、SNSトラブル等、年々複雑化。

各種学力調査において、英語科を含む各教科においてC層+D層の割合が多く、都平均・区平均と有意に乖離している実態がある。

昨年度の「登校できない生徒」は全校生徒数の12.25%。その理由の多くは「集団生活への不安」であり、その支援は急務である。

【本校の研究主題】

国際社会に貢献できる人材の育成を目指して

～『プラス1クラス制』による「集団生活へのよりよい適応」と「良好な人間関係の構築」を目指して～

【学校の教育目標を達成するための基本方針】

「互いを大切にし、自他(そして社会)の目標達成のために、ともに高めあえる学校」を目指して

【育てたい生徒像】

心豊かで思いやりのある、国際社会に貢献し、自律・礼譲・開拓の精神をもって活躍できる生徒

【研究仮説】

- 広く生徒の心の安定を図り、集団生活への復帰・安定した登校を支援するためには、きめ細やかな指導を行うことが有効と考え、第2学年を2学級3コース展開し、学級人数を縮減することによって、よりよい集団づくりを進める。
- 2学級3コース「プラス1クラス制」を通じ、生徒自身が日常の学校生活を模索し、よりよい集団づくりと良好な人間関係をさまざまな集団の中で学ぶ機会が設けられる。縦割り活動や生徒会活動等での機会確保も想定され、学校全体としてのメリットがあり、安定した学校行事運営等による魅力ある学校づくりへとつなげることができる。
- 全学年の学級数が揃い、安定した学校行事・生徒会活動が運営されることで他学年にもよい影響を与える。

【研究の重点】

- ① 生徒にとって魅力ある学校であり続けるための、生徒に寄り添える環境づくりとしての研究
- ② 「プラス1クラス制」でのクラス編制・固定時間割の運営など教職員の指導体制に関する研究
- ③ いじめや不登校の未然防止・早期対応・早期解決につながる学校組織の強化を図る研究
- ④ 働き方改革が必要とされる時代にあって、過度に負担がなく、生徒のために効果が見られる研究

【具体的な手だて】

- ① 2学級3クラス編制を行い、多くの教科において3クラスの指導体制を確立し、学力向上を図る
- ② 教員の目が行き届きやすくなる、担任3名副担任2名態勢で組織的な生徒指導を推進する
- ③ 全学年が3クラスとなることでの縦割り指導や生徒会活動の活性化で自己肯定感を高める
- ④ 不登校対応巡回教員・不登校コーディネーターによるきめ細やかな巡回支援を確立する
- ⑤ 道徳ではローテーション指導に加え、「良好な人間関係の構築」をテーマにした授業を実施
- ⑥ 本校の研究推進の取組を広く地域・保護者に周知し、魅力ある学校との認識をさらに深める

【研究の到達目標】

- ① 安定的な入学生徒数の確保につながる、生徒に・地域に・保護者に・教職員にとって、さらに魅力ある学校
- ② いじめ・不登校の未解消・未改善ゼロを達成し、いじめ・不登校に悩む生徒が相談しやすい、居心地よい学校
- ③ 学級規模縮小によるきめ細やかな指導により、個々の生徒の学力向上が図られ、希望する進路に導く学校

本校の研究に関するQ&A

本校の研究発表の概要について、研究構想図とあわせて具体的な内容をつかんでいただくためQ&A形式でお伝えさせていただきます。

Q1:「プラス1クラス制」とは、どのようなものですか。



A

○本校の第2学年は在籍生徒数が77名で年度始めを迎え、中1ギャップによる3学級から2学級となる所でした。そこで、「2学級3コース」というイメージをもち、第2学年を3クラス(1組・2組・3組)と2コース(Aコース・Bコース)での名簿編制を行い、主たる学習を3クラスで行うこととしたものです。

Q2:学級人数を少なくするメリットをどう考えましたか。



A

○各教科指導においては、少人数できめ細やかな指導ができるよさがあり、学力向上に寄与するものと考えました。また、学級人数が少なくなることにより、教員の目が行き届きやすく相談しやすくなるよさを生かし、魅力ある学校づくりを目指しました。

Q3:各教科で工夫した点や困難な点がありましたか。



A

○時間講師が指導を行う教科においては、3クラス分の時間配分はありません。当該教科は2コースで授業を実施しました。数学では、習熟度別指導は2コースを3展開することとしました。また、英語においては国際社会に貢献する語学力向上を目指し、2コースで指導します。固定時間割や時間割変更には工夫を要しました。

Q4:不登校やいじめ対策の手ごたえはありましたか。



A

○学級人数が少なくなったことで、登校が不安定な生徒への働きかけに資する時間の確保につながりました。いじめを含む問題行動に関しても、生徒にとって相談しやすい、より少人数の環境を提供できたと考えています。課題としては、2コースに関する生徒指導等にあてるホームルームを設定できないことです。

Q5:第2学年以外への波及効果はありますか。



A

○第2学年が3クラスにできたことにより、全学年が3クラスに揃いました。学校行事等について「縦割り」が整うだけでなく、生徒会・委員会等への選出・活躍の機会が増えることにもつながり、全校での「魅力ある学校づくり」につながりました。

成果と課題について

本校の研究実践について、生徒・教職員のアンケート結果から成果や課題について考察しました。

○教職員による現状分析はどのように進めましたか

SWOT分析(強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリーで要因分析して、今後の改善策を検討するもの)を、複数回にわたって実施しました。

分析の目的を「魅力ある学校づくり(いじめ・不登校の漸減→学級増)」と

南葛西第二中学校のSWOT分析

目的「魅力ある学校づくり(いじめ・不登校の漸減→学級増→生徒数、保護者に、地域に、教職員に、さらに魅力ある学校)

	プラス要因(強い・肯定的な点)	マイナス要因(弱い・否定的な点)
内部環境・校内	1. 南葛西第二中学校の強み(できていること)	1. マイナス要因(弱い・否定的な点) 2. 南葛西第二中学校の弱み(過去のこと)
外部環境・校外	1. 南葛西第二中学校へのよい評判(可能性)	1. 南葛西第二中学校への悪い評判(悪評など)

★プラス1クラス制の実践を通じての中間評価に向けて

南葛西第二中学校 令和6年6月

項目	プラスの成果がみられた点	改善を要する課題がみられた点	現状の評価	今後の目標・改善策
生徒に	学級の人数の増減 学力向上につながる可能性 行事が激増しできた 担任に見てもらえる 活躍の場が増える 3クラスであること	特約した展開に担任がない 落ち着きがない 変化に対応できない生徒がいる 科数が多くなる	2年以外の生徒に実感がない 2年の生徒もありがたみを感じていない 3クラスではどうしている	実感をもちたい たてわりのよさを見える化する 2民間の授業の規律改善 2クラスになることしたらの想定
保護者に	3クラスがありがたい より高ら着くと思う 要望が通ったことへの感謝 学校と保護者の一体感 不安の解消・安心感・信頼感 丁寧な指導への期待	大年度はどうなるか…不安と期待 2年生以外の保護者は無関係感? 来年は?	他の学年に価値が伝わらない 大年度に向けての期待感 現1年生はどうなるのか?	アンケート等を実施する 周知する 他の学年にも実感をもちたい
地域に	本校が研究校であることが知られていない (学校の努力がよい意味で「当たり前」として知られている)	地域の方々に知られていないこと	地域の人には伝わっていない	広報に努める イベント・ボランティア 熱心な教員がいる学校と伝える ポスター・横断幕等の設置
教職員に	2年生を少人数でわけて指導でき たてわり・行事がスムーズ 負担軽減	他の学年への発表 立ち上げの準備・負担 補教・担任が困難 生徒を把握しにくい面がある 講師助教・講師の負担 固定時間割が組みにくい 成績の付け方等に注意が必要	大規模なクラスがないことは課題 働き方改革につながる面は そうでない面がともにある 2年生は進めやすい 他の学年の実感がはつきりしない	アンケート等を実施する 勤務時間のこと 加配のこと(習熟度別) 来年どうなるのか?は課題 結果を示す発表会、授業参観

定めて、「生徒に」「保護者に」「地域に」「教職員に」と対象を明確化した分析をおこなったことは実りあるものでした。

プラス1クラス制の実践を通じての最終評価に向けて

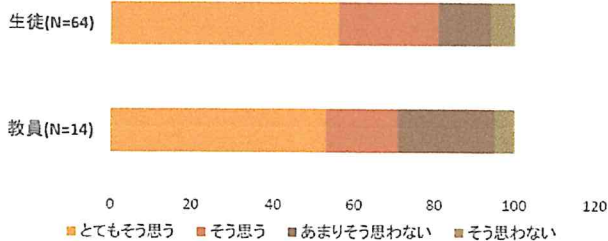
南葛西第二中学校 令和6年12月

項目	プラスの成果がみられた点	改善を要する課題がみられた点	現状の評価	今後の目標・改善策
生徒に			1年・2年生	3年生以上
保護者に			1年・2年生	3年生以上
地域に			1年・2年生	3年生以上
教職員に			1年・2年生	3年生以上

○生徒・教職員によるアンケート結果から何ができてきましたか

研究の成果

Q. 3クラスで良かったですか。



プラス1クラス制への肯定的な回答が、生徒の80%以上、教員の70%以上を占めました。いじめ問題に重点をおいた道徳の授業には、生徒も教員も85%以上の肯定的な回答、国際社会に貢献できる人間の育成を目指すスピーキング中心の英語授業には、90%以上の肯定的な回答を得るなど、本年度の研究の重点・具体的な手だてについて肯定的な回答を得ました。

引き続き、自由記述において生徒から「少人数学級による安心感」「教室移動に関する課題」等をはじめ寄せられた内容について、肯定・否定を問わず検証を進め、学校評価等にも加味し、他校においても活用できる汎用性のあるものとしていきます。

○研究の成果をどのようにとらえていますか

『プラス1クラス制』によって、学級所属人数を減らすことができ、きめ細やか指導が実現し、「集団生活へのよりよい適応」と「良好な人間関係の構築」の一定の成果が得られたと考える。

本年度より取組を開始したばかりの研究実践ではあるものの、今後の「35人学級」導入に向けた先行事例の一つとして広くお伝えできたこと、アンケート等を通じて、生徒・保護者・教職員のみならず地域の皆様方にも南葛西第二中学校が生徒を大事にした、魅力ある学校づくりに取り組んでいることと一定の評価を得たことは大きな成果であると受け止めています。引き続き「研究の到達目標」の実現に向けて、誠心誠意歩みを止めずに取り組んでまいります。



おわりに

本研究を通じて、「プラス1クラス制」の導入とその効果について深く考察してまいりました。「プラス1クラス制」は、教育現場において生徒一人ひとりの多様なニーズに応えるための重要な取り組みであると同時に、教師にとっても新たな挑戦となる制度です。

「プラス1クラス制」により、学習環境が充実し、より個別最適化された教育が実現することが期待されています。生徒同士の交流や協力を促進し、学び合うことで、より深い理解が得られる環境を提供できるのではないのでしょうか。また、教員にとっても、少人数に編制したクラスでより密な指導が可能となるため、教育の質の向上が見込まれます。

今後、「プラス1クラス制」を実践したことで、学力の向上等にどのような効果があったのかを評価し、その課題も浮き彫りにしていく予定です。この研究実践が、検討が進められている「35人・30人学級」へのモデルとしての価値や学校独自の「少人数クラス・学級」の実現につながる可能性も見たいと考えます。

しかし、「プラス1クラス制」の導入には、運営面やリソースの確保といった課題も伴います。今後は、各学校や教育機関での実践を通じて、先進事例・成功事例を共有し、課題を克服するための知恵を集めていくことが重要であると考えます。

最後に、「プラス1クラス制」が日本の教育において新たな可能性をもたらすことを願い、今後の研究と実践がさらに進展することを期待しております。ありがとうございました。

副校長 今野 嘉男

ご指導いただいた講師の先生方

講 師 明海大学教職課程センター・地域学校教育センター 教 授 石鍋 浩 様
担当指導主事 江戸川区教育委員会教育研究所 指導主事 松井 芳信 様

研究に携わった教職員

校 長 古澤 浩一 副校長 今野 嘉男
研究主任 長嶋 昌子 (英語)

第1学年 田代 卓真 (数学・学年主任) 佐久間 若帆 (理科) 荒巻 紫 (英語)

川島 拓真 (技術・進路学習主任) 小林 貴央 (国語)

第2学年 竹腰 英貴 (国語・教務主任・学年主任) 今井 健太 (保体・生活指導主任)

矢部 光輝 (数学) 向田 稔 (社会) 長嶋 昌子 (英語・研究主任)

第3学年 竹村 英森 (社会・学年主任) 戸津 幸 (音楽) 岩井 智子 (保体)

小川 和博 (数学) 堀井 理沙 (養護・保健主任) 河内 良輔 (数学)

伊奈 律子 (国語・非常勤教員)

都費講師 眞鍋 澄子 (家庭) 藤森 可奈子 (理科) 堀 彩野 (美術)

巡回指導教員 (特別支援教室) 吉川 秀夫 丹野 亜耶 面 壮彦 藤田 将嗣
(不登校支援) 庭山 大祐

事務主事 岩崎 典子 本庄 園子 (事務補助)

栄養士 小林 早紀子 加藤 愛子 (10月~12月)

用務主事 藤ノ木 雅人 星野 幸江

スクールカウンセラー 中村 貴子 副校長補佐 駒田 悦子 SSS 藤澤 愛

特別支援教室専門員 稲垣 愛子 SSW 福田 亜沙美 巡回心理士 森 眞弓



江戸川区立南葛西第二中学校

〒134-0085 東京都江戸川区南葛西5-3-1

TEL 03-3878-3651

